

「診断の契機となった症状が膵臓癌の早期診断率と予後に及ぼす影響に関する

後ろ向き観察研究」 の臨床研究へのご協力をお願い

日本において膵臓癌はこの10年間で増加傾向にあり、その大半が外科的な手術ができない進行した状態で診断されています。膵臓癌の長期治療成績は未だ不良であるため、可能な限り早期で診断される患者さんをいかに増やしていくかが重要となっています。一般的に、膵臓癌は症状が出にくいため、何らかの症状が出た時点で受診する患者さんは切除ができない進行した状態で発見されることが多く、早期発見が非常に難しい疾患です。しかし、実際に症状が出た患者さんと出ていない患者さんで、切除ができる状態で診断される確率に差があるのか、症状の有無により膵臓癌の治療成績に差があるのかどうかは、未だにわかっていません。

そこで、本研究では2017年1月から2023年12月末までの期間に九州がんセンター 消化器・肝胆膵内科と肝胆膵外科で診療を行った膵臓癌の患者さんを対象に、過去の日常診療で得られたデータから以下の情報の調査を行います。

年齢、性別、初診時の症状の有無とその詳細、手術、抗がん剤治療・放射線治療開始時の状況、治療効果、治療期間、予後、副作用の内容と治療への影響 など

本研究は日常診療で得られた臨床データを集計する研究であり、これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は個人情報を持ち離して、個人が特定されない形で、厳重に扱います。

皆さんの貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究に関する研究計画書および研究の方法に関する資料を入手又は閲覧されたい場合、もしくはご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方は、下記の連絡先までご連絡ください。

当院における連絡先

国立病院機構九州がんセンター 消化器・肝胆膵内科

李 倫學

電話： 092-541-3231(代表)